

「子どもを祝福する」

2022年03月18日

イエスに触れていただくために、人々が子どもたちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。よく言うておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこへ入ることはできない。」そして、子どもたちを抱き寄せ、手を置いて祝福された。(マルコ福音書 10 章 13 節～16 節)

主イエスは、ファリサイ派の人々と結婚、離縁、姦淫について議論をされていた。そこへ、子どもを連れて人々が入り込んで来た。当時、母親たちはラビ（宗教指導者）を見かけると、子どもの頭に手を置いて祝福を祈ってもらうことが習わしであった。今、数名の母親たちが主イエスを見かけ、子どもたちに祝福を求め、駆け寄ってきたのである。すると、弟子たちは母親たちを叱りつけて、遠ざけようとした。大人の結婚、離縁、姦淫について議論している今、子どもたちが来て、議論を中断させるわけにはいかない。更に、子どもは 13 歳になって、律法の下で大人として認められる。律法で認められていない子どもは、一人前ではない。律法問題が議論されている時、子どもの出番ではないからである。

主イエスは、祝福を求める子どもたちを追い払おうとする弟子たちの仕打ちを見て、憤られた。主イエスはペトロに対し激しく憤られたことがあった。時の権力者たちに排斥され殺され、三日の後に復活すると予告された時、ペトロは主イエスを脇へお連れしていさめた。彼には考えられないことであったからである。この時、主イエスはペトロに「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人のことを思っている」と一喝している。弟子たちが子どもたちを排除した時の憤りは、ペトロに「サタン、引き下がれ」と言われた時ほどの憤りではなかったが、悲しみを込めた激しい怒りを発せられた。

そして、「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである」と言われた。私のところに来る子どもたちを妨げてはならない。神の国は、人として認められていない弱く、小さい子どもたちのものである。そして、「よく言うておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこへ入ることはできない」と続けられた。「よく言うておく」は「アーメン レゴ（私は真実を語る）」という言葉で、重要なことを語る場合に使われている。

子どもは神の国を受け入れるとはどういう意味なのか。子どもは純真だからと大人の目線から言えよう。しかし子どもは純真か。子どもは弱い存在であるから、極めて自己中心である。その自己中心の行動が、大人には純真に見えるが、自分を守るためには残酷なことをする。主イエスが、子どもは神の国を受け入れていると言われたのは、子どもらは自分の弱さを知って、助けを率直に求めるということである。幼児に全能の愛の神を教えたら、100%信じ、喜んで受け入れる。主イエスは、子どもは神の守りと祝福を全き信仰を持って受け入れる、この子どもたちの信仰こそが神の国の姿であると言われたのである。

「そして、子どもたちを抱き寄せ、手を置いて祝福された。」本当に美しい光景である。主イエスは、子どもたちを招き、祝福することを通して、神の国の住民に招かれるために、神への全幅の信頼を教えられた。それは、自分の力を奢らず、弱者を排除せず、互いの弱さを認め、助け合って共に生きることである。